

～地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業～

〔令和6年度実施地区〕 白鷹町小山沢地区

■実施体制

- 実施主体：小山沢地区住民、耕作者
- アドバイザー：小野 晋 氏（株式会社 地域環境計画）
- コーディネーター：置賜総合支庁農業振興課、白鷹町

■地区のプロフィール

- 地区内の戸数：113戸 うち農家数約55戸
- 主な被害作物：水稲、ラフランス デントコーン 等
- 主な加害鳥獣：イノシシ、ツキノワグマ



1. 取組のきっかけ

- イノシシによる田畑の掘起こしや、畦畔の破壊等の被害が発生している。
- 近年ではツキノワグマの出没が増加し、果樹、デントコーン等の食害も発生している。
- 農業従事者の高齢化や担い手不足により、耕作放棄地の増加、緩衝帯の整備が行き届かないことが問題となっていることから、地域が一体となって鳥獣対策に取り組む必要があると考えたため。

2. 取組の内容

- 事前打合せ（令和6年6月3日）
小野アドバイザー、県、町、地区代表者による打合せを行い、被害状況を確認し、研修の内容について意見交換を行った。
- 第1回研修会（令和6年6月21日）
小野アドバイザーの講義を行いイノシシの生態、これまでの取り組みについてを再度確認した後、集落環境点検を実施した。実際に地区の現状や、獣道等を目視で確認し、地図上に箇所付けを行い、今後の対策の基盤づくりを行った。
- 第2回研修会（令和6年10月21日）
小野アドバイザーから、第1回研修会の振り返りと、正しい電気柵の張り方についての講義の後、第1回研修会で出没リスクが高いと箇所付けされた耕作放棄地を参加者一同で刈払いを実施した。
- 第3回研修会（令和6年度11月28日）
本事業の取り組みに関する総括と今後の小山沢地区の鳥獣対策の目指す方針や、今後の対策への提案について意見交換を行った。



第1回研修会



第2回研修会

3. 課題と今後の展望

- 集落環境点検により判明した鳥獣の侵入経路となるリスクが高いエリアの整備を進めていくほか、今まで実施してきた対策や、本事業の内容を来年度以降も継続し、集落が一丸となって被害対策を進めていくことが何よりも大切であると同時に課題でもあるということを確認した。